京城新聞

寄書

漫言

渡邊不言

本地垂跡の說をなして日本的佛教の一生面を開きたる眞言陀羅尼宗の開宗たる空海は釋迦が四十九年間竪說横談したる一切の經卷を悉く顯教となし以て密教堂奧に入るの楷梯となし門戶となす彼が二教論に曰く因分可說果分不可說是顯教因分可說果分可說是密教と云ふは是正しく密教を以て華嚴天台の實理に超越せりと思はしめんが爲なり其所說を聽くに決して諸宗の如く眞如を理躰に求めずして事躰に求めて曰く眞如外に非ず身を棄てゝ何處にか求めんと云ひたる如き或は彼が眞言呼字義に世間の言舌に四あり曰之虛妄なり獨大日覺王の說眞言なりと甚意樂するに眞言とは眞實の言にして虛妄なし虛妄なきが故に火と云へば火の實躰現はれ水と云へば水の實質俱に存するが如く言語と實躰と決して離る可からざるものをこそ云ふならむか基督教の聖書を見るに約翰傳第一章に曰く太初に道あり道は神と偕にあり道は即ち神なりこの道は太初に神と偕にありきと云ふと何ぞ其相似たるや倚は約翰默示錄を通讀するに彼の佛教中龍樹菩薩が南天の鐵塔を開き大日如來が金剛手菩薩を相手に自受用なる說法を聞きたりと云ふと何ぞ其相似るや凡て眞理は隱識心通の中に證得せらるゝものなるか予貢嘗て曰く夫子の性と天道とを說くは得て聞く可からずと子貢既に夫子の性と天道とを說くを隱識心通の中に了得するものなるか此等の心得なくして徒に聖書を讀み徒に佛典を讀むも畢竟無益なり時間の敵なり有爲五十年間を宗教に費すものなり請ふ先づ眞理を求むるもの眞理を愛するもの飛花落葉を觀て眞理を獲得せし獨覺者あることを忘る可からず

●未墾地利用の許可

九月中に未墾地利用法により貸與又は認證の許可を受けたるもの左の如し

京畿道水原郡南部下柳川方洞峴前坪草生地六町一畝廿六歩五合　京畿道[illegible]河郡 李重熾 外三名
黃海道黃州郡仁濟坊栗灘里荒蕪地十七町八反三畝三歩　黃海道黃州郡 三瀦吉藏
忠淸南道懷德郡西面院洞草生地十町三反六畝三歩五合　京城南山町 川口芳三 外一名
慶尙南道昌原郡東面葛田里山南里草生地十七町九反二畝十五歩三合　京城中署 白敬[illegible]
咸鏡南道咸興郡連浦面上里前甘長坪草生地百六十八町四畝二歩五合　咸鏡南道咸興郡 鄭鎭弘
平安北道義州府光城面正心洞正心里荒蕪地二十四町三歩廿六歩　京城南部 洪肯燮
京畿道仁川府多所面北村里前坪干潟八町五歩　京城南部 安甲善
全羅南道莞島郡多所面石場浦中分里干潟三十四町一反一畝廿四歩　京城北部 鄭炳圖
黃海道康翎郡新與面坊二里登山串干潟十七町一反二畝十歩　京城西部 杉市郎平
平安北道定州郡海山面二里四基洞干潟十二町六畝廿歩三合　平安北道泰川 金稙實 外三名
平安北道[illegible]郡[illegible]面[illegible]干潟廿六町二反二畝十三歩五合　同人 外三名
平安南道江西郡東部坊青山浦干潟二町四反六畝十歩九合　平安南道龍岡郡 李瀕鍵
忠淸南道牙山郡敎義面來新堰干潟十三町七反九畝二十二歩　忠淸南道新昌郡 徐丙觀
慶尙北道延日郡西面院洞實學草生地六町四反五畝十一歩　釜山西町 大塚昇次郎
慶尙南道晉州郡佳耳谷面佳耳谷草生地三十町九反六畝一歩　京城南部 李英秀

（四十七）

河合[illegible]葉

蒙嫌れ君は終に御室侯爵の愛妾となつて、れ側に冊く者となつた。年齢て[illegible]抑も[illegible]の逢瀬を渡り初めしは十五の暮にて、今年十九の秋を迎ふるまで、世の辛慘を甞め盡くし、有と有らゆる艱事に慣れた阿婆擦女とて、寸分の隙もあく人を射るは腸よりの術に洩れず、御供役たる大山には辭を低うして、些細な事まで一々相談をなし、苟めにも我任意に事を振舞ふではなく、何一つ買へばとて其の中は、先づ大山に與へると云ふ有樣ゆゑ、大山は早くもれ君の魔術に醉はされてれ君樣、れ君樣と、尊敬を拂ふに至つた。夫に馬にして斯の如く射落したからには、高を括つたれ君は、日中なぞは如何にも高家の令孃か、若くは若き令夫人の如く、側にこそ侍つて居るけれど、侵すべからざる氣品を示して侯爵の話かけらるゝに、辭少なにれ相手する位で、如何にも優しくそして虫も殺さぬ樣な容子であるが、扨て夜の幕になつて床に就くか否や、これが日中侯爵の側に侍して居たれ君かと思はるゝ位、總ての態度が一變して、浮世馴れない、而して戀に初心な爲雅侯を、掌上の珠と弄び、莫蓮女の本性を看破されない程度の下に、拗ても見せれば、甘へても見せ、嬉しがらせても見れば、殺文句を列べても見る、舌一枚と、五尺足らずの小さき軀をもつて、閨中の情を濃ならしむる其の秘術、巧みな事は驚くべきもので、其結果は忽ちにして爲雅侯を軍門に降伏せしめ、れ君ならでは夜も日も明けぬ事になつた、或夜閨中情緒濃なる時であつた、君子は雌鹿の如き愛らしい眼に媚を湛へて、

「ね、御前樣、若や東京の御屋敷へれ連れ下さいました節、れ後室樣や、御親戚の方々から那樣身分の賤しいものを、屋敷の中に置く事はならないゆゑ、今日限り暇を取らせと有仰いましたら、私はそれ限りれ見離てなさるのでございませうね。こんなに優しい情に預りまして、れ嬉しう存じて居りますのに、左樣な悲しい境涯に沈まねばならないかと考へますると、何だか今より淚が零れます。」

と、密と淚を緋縮緬の長襦袢の袖に拭ふ眞似をすれば、爲雅は其の背を撫でながら、

「なにが泣く事が要るものか、假令母が嚴しく云はうと親戚が故障を述べやうと、やの家令が諫言を致さうと、予が現世に居る限りは、誰が何と申しても、れ前を見捨る氣遣はないから安心するが宜い、若も強ひて左や右面倒な事を申すものがあれば、誰彼の容赦はない、皆な屋敷から逐ひ出してやる。」

「今でこそ左樣で仰せられますけれど、私のやうな不肖女は、永くれ側に居りまする中には、必然れ可厭になりまして、れ暇を下さるのは眼の前に見れて居りますゆゑ、どうせ永くれ側に冊く事が出來ないものでございますから、れ情けの深く重りませぬ中にれ暇を頂いた方が、まだしもれ別の悲みが少ないかと存じます。」

「どうしてれ前が可厭になるものか、設へれ前が暇を下れいと申しても、予の方から遣すものでもない、那樣事は必ず心配致すな。」

▲無料紹介欄▼

人事部

●新聞社の校正係又は外交員を希望年三十五元刑事且つ活版事業に經驗ある者　氏名在社（五八）
●求婚　本年二十八月收八十圓血正無十八九の良家の淑女と結婚したし　氏名在社（六七）
●外交係入用　市内保證人あるもの本人直接來談を乞ふ　南山町二の一七三番商工組合事務所（六七）
●弟子入用　但し十四五歲のもの　氏名在社（六八）
●求婚　年廿六血統正係累無月收五十圓妻不問廿歲前後体健血正の女子と結婚したし　氏名在社（七〇）
●京城又は附近にて豆粕の製造所又は販賣所あらば御知らせを乞ふ　氏名在社（七一）
●被雇度　朝九時より午後三時迄の間雇はれたし給金不要年十九保證人あり　氏名在社（七二）
●夜間自宅にて筆耕に從事す御依賴の方あらば御申越し次第參室の上委細承致すべし　姓名在社（七四）
（七三）エム生に答ふ長谷川町一丁目三〇番戶に來れ　エチ生（七五）
●仲居入用、年齡十七年より廿五六年者至急一名入用但料理店に心得の有る者なれば尙宜し　大和町一江戶善（七九）

物件部

●熊本縣人市下確氏の消息を知りたし　エヌ生（七七）
●年齡廿五歲（妻帶者）會社銀行等の小使に雇はれたし　姓名在社（八〇）
●十四五才の小僧入用　但身元引受人を要す　氏名在社（八三）
●從來開業中の醫師突然歸國の不得已に付醫療機械藥品及び患者付の儘にて至急讓渡したし　姓名在社（四七）
●貸間　本欄人事部に御答申すオンドル一間疊貳枚敷餘り庭園尤雅にして閑靜絲綱は御來談を乞ふ永樂町佛國教會裏山田（六三）
古着道具買たし本町七丁目一六號（六四）
●貸地　旭町一丁目の山の手にて風景絶佳の土地家屋附にて讓りたし御望みの御方は御來談を乞ふ　姓名在社（七〇）
一本町より明治町に入三軒目空地三十坪斗附の貸家あり　櫻井時計店（七八）
裁縫、刺繡、編物、造花、摘細工、英語教授す和服仕立物御注文に應ず　大和町三丁目廿六番戶　古谷（八一）
貸地　本町　韓山十五間道路南大門外四千坪割貸　四ヶ所洋物店電三二一番（八二）
●至極輕便なる方法にて貸金の相談に應ず但照會封書　貨金所龍明舘內渡邊（八四）

京城新聞

韓國の宗教

韓國寺院の統一說を聞く。曰く各道の寺院代表者は全國寺院の統一を圖り佛教を振興するの目的を以て日本の僧侶を顧問とし京城に宗務院を設置する事を內務大臣に申請し內部大臣は閣議に附し更に參與官會議に廻れり云々、之れが果して事實ならば甚だ愚策にして之を認可せんとする當局の識定見に驚かざるを得ず。試に韓國の佛教なるものに就て觀察せよ、李朝以前の昔はいざ知らず近世に於ける韓國の佛教は殆ど死灰の如く、唯寺院の形骸を存するのみにて社會に對して何等の要もなさず、僧侶は全然社會の外に放逐せられ、衆生濟度の役目は愚か葬祭供養にすら讃經するを許されず、上は皇室より下は撤軍に至るまで僧侶を以て社會外の人類として輕蔑す、僧侶自身も世捨て人の如く心得て恬然怪まざるのみならず、寺院を以て待合となし佛像の前に於て男女を會合せしめ、其醜態を看過して少も頓着する所なし、尼寺は一の淫賣宿にして女僧は色界の幹旋者たり、斯る墮落せる僧侶、社會外に放逐せられて國民一般より過度の輕侮を受る僧侶を以て佛教の振興を圖らんとするは木に緣りて魚を求むるよりも難事なり、韓國の寺院は數百年來社會より擯斥せられたる爲に佛教なるものは消滅し唯存在するものは其形骸のみ、之を再興して人心に德化を與へんとするは勞多くして效力少なし、然らば如何にして人心の德化を圖るべき乎、儒教は上流間には多少行はれ居るものゝ如くなれども、是迚も唯々形式に流れて之を實踐するものなく、殊に儒教は多數の下流人民には解せられざる爲に儒教あるも國民を德化するの效力あらず、巫女の如きは素と是れ淫祠邪教にして害あるとも益なし、韓國民には宗教なし、故に韓國民には未來の觀念なく從て現世主義となり、唯夫れ肉慾を擅にし些の靈性的慰安なき爲に性情自ら殺伐慘酷の風に流る、未來の靈的觀念なき國民は到底美なる社會を形成する能はず韓國人が酒色の外に最大快樂なきものと思へるも要するに靈的觀念なきが爲なり、渠等は麵包のみにて生るものと思へり、故に極端なる利己本位たるに至る、其衰亡は亦た當然と云ふべきのみ、之を以て韓國民の改善を謀るには渠等に未來の觀念を抱かしめ、人は麵包のみにて生るものに非ざるを知らしむることこそ肝要なれ、幸に韓國にはローマンカソリック及プロテスタントが外國人に依りて宣傳せられ居り、日本の基督教も亦宣教を始められんとす、日本の佛教も小規模ながら開教せられつゝあり、近くは救世軍も活動せらるべし、伊藤公も近來此點に就て大に考慮せらるゝものゝ如く日本基督教の組合に對して後援せらるゝ所あるを聞く、兎に角其着眼の堅實なるを歎ぜざるを得ず、當局者は此等の宗教宣布に何等の干渉する所なく、自由に開放して公平なる便宜を與へ、心靈界の開拓を盛ならしむべし、徒に寺院統一の如き愚策を行ひて世人の誤解を招き延ひて現在佛道に從事する諸宗教家の惡感を買ふが如きは決して爲すべき事に非ず、死灰の如きものを振興すると云ふが如き迂遠の事をなさずして、實際活動しつゝあるものを其任に當らしめよ、無效力なる韓國佛教の歷史を無視して之が再興を策するが如きは勞多くして効力なし、活ける基督教活ける日本の佛教を傳播すること急務なり、當局者たるもの宜しく余輩の言說に聽きて寺院統一の如き有害無益の愚策を捨つることを敢て勸告す。

鶴原長官去る

總務長官鶴原定吉氏今回其椅子を擲つ、余は統監府の爲に氏の去れるを惜しむの情を禁ぜんとするも能はず、評者曰く定吉氏在職三年而かも其間何等の成せしことあらずと余輩の見を以てすれば氏が三年無爲の生活を送りたるは是定吉其人の罪のみに非ずして實は氏の手腕を十分に振はしめざりし伊藤統監其人の罪たらずんば非ず、世評曰ふ定吉氏素より大人物にはあらざりしと雖而かも勅任一等官としては卓越したる人材たりしと、此は蓋し公評なり而して余輩亦此評に與みす。

石塚新長官

鶴原氏去つて石塚總務長官事務取扱を命ぜらる、氏は事實に於ての新長官なり、氏や壯年臺灣に於て[illegible]民政長官を[illegible]勤む、而かも二[illegible]於ての在職中何等著しき事蹟を擧げ聞かず、說者曰ふ氏は大山元帥夫人捨松の姪壻たるの故に薩派の後援を有し伊藤公にも決して輕視せられずと、果して而らば鶴原氏の如く薄遇を受くることも無く其有する材幹技能を十分に發揮[illegible]便宜を有するものと云ふべし、只惜[illegible]も未だ多く世波に馴れず從て局量狹き[illegible]純官吏としては兎も角所謂殖民地的[illegible]ばあらず、世と純官吏とは殆んど沒[illegible]然れども總務長官に到つては而[illegible]氏たるもの鶴原氏の椅子を襲ふに當り三省して可なり

東京電報

▲唐紹儀の參內

唐紹儀本日參內し左の通り獻上品をなせり

花瓶 一對
貂皮打掛 一枚
右清帝より天皇陛下へ
象眼腕環 一對
緞錦 二卷
右西太后より皇后陛下へ

雜報

●副統監の謁見

曾禰副統監は本日午前十一時より今回交代歸還せらるゝ第十三師團長中將岡崎生三、步兵大佐志波今朝一、參謀長大佐渡邊小太郎、一等主計正田中政明、一等軍醫正柴岡文太郎、步兵中佐足達鑑治、二等獸醫正藤綿芳一、步兵少佐坂部義勇、同山村梓、三等軍醫正村上潔、步兵少佐杉山正之、同伊集院部五郎、工兵大尉內藤三守、步兵大尉廣瀨末彥、砲兵大尉宮村九三郎、步兵大尉渡邊金藏、騎兵大尉林八郎、步兵中尉平柳竹志、同河瀨二郎其他工學博士妻木賴黃度支部試驗場技師上田榮次郎、專賣局技師奧健藏の諸氏を伴ひ參內し韓皇に謁見し岡崎師團長以下は御暇乞を奏せらるゝ筈なり

●兩李の不敬事件

侍從院副卿李曾九同侍從李恒九の兩人は共に從兄弟の間柄にて恒九は總理大臣李完用の子曾九は其侄なるが兩人は何事よりか所もあるべきに去る二十日皇帝の御前に於て爭論を始め果ては所をも憚らず冠を脫して格鬪するに至り殆んど二時間御前を騷がしたりと然るに韓國に依れば皇帝の御前に於て此の如き不敬の行爲ありたるものは流刑に處せらるゝの明文あるにも拘らず侍從院卿閔丙奭は李總理を憚り不敬を働きたる兩李に對し何等の處分をもなさゞりしが皇帝には非常に激怒せられ閔丙奭に對し兩李處分に就て御下命ありたるを以て閔氏は昨今之れが處分に就て苦慮しつゝありと

●學部廳舍の新築工事

九月中旬に着手し現廳舍構內に新築中なる學部廳舍は工事費約二萬四千餘圓にして木造二階建八十坪平屋建七十八坪を階上に大臣室次官室秘書課應接を階下及び平屋建に學務局第一第二兩課會計課文書課を設くるの設計なり竣工期は來月末の見込にして竣工の上は現廳舍本廳は會議室食堂に充て本廳裡なる事務室は編輯局に用ふる筈なり

●總會參列者の注意事項

來る卅一日の赤十字社總會には日本赤十字社員は內外國何れに於て入社したる者及總會前新に入社したる者も齊しく參列するを得るの定めなるが社員は總て左の事項に注意するを要すと

一、出席社員は必ず社員章(略綬の者は謝絕す)佩用の上開會前所定の式場に就くこと
一、地方社員の爲め前以て委員部宛汽車船賃割引證を送付しあるに依り參列社員は所屬委員部に付き割引證の交付を受くべきこと
一、總會場は京城鐘路電車通り西大門內師團隣傍官舍側慶熙宮興化門より入り掛員より紀念品等を受取り式場に列すること
一、出席社員の服裝は男子はフロックコート(軍服正服)又は羽織袴女子は白襟紋付の事
一、婦人社員は婦人席に參列すること
一、內地より轉任の社員中未だ移籍編入の手續なき爲め通知漏れの向ある可きも社員章佩用者は參列差支なきは勿論なるも此際各委員部に於て社員名簿整理上の必要あるに依り右は成るべく總委員部又は各委員部に屆出ありたし

●龍山の歡迎會

龍山居留民一同は第六師團及び鐵道管理局總務部の歡迎會を來る二十五日午後一時より同地元町本願寺背後の山上にて開催する由なり

●軍隊歸還

平壤駐箚第五十二聯隊本部同四ヶ中隊は廿二日同地を發し二十三日午前十一時龍山より歸還せり尙岡崎師團長も見送の爲め龍山に出張せり

●韓武官の演習

韓國軍部の將校三十三名は步兵大尉池氏に引率せられ水原にて第二回の幹部演習を行ふ由にて二十二日出發せり

●救世軍の布教

嚢に入京せる救世軍大佐ボッガード夫妻大尉ボンウイチ下士ミルトン夫妻の一行は去る十八日西大門外英人ドナン氏方に寓居し布教を開始し當日韓人の會集約六十名あり會集中信徒となりたる者六名あり尙ホッガード大佐一行は永く京城に住し將來傳道に從事せらるゝことゝなれり

●清國密輸船捕獲

仁川稅關のデーシー號は一昨日碧巖渡附近に於て支那密輸船三隻を捕獲し仁川に曳き來りたるが同船は鹽を滿載し居れりといふ

●暴徒と地方の狀況(續き)

△天安管內 概して平穩なり溫陽郡地方は常に數名の賊徘徊し人心稍々不安の情態にあり其他報恩地方に少數の賊徘徊する情報あり

△公州管區 錦江以西定山林川郡地方には三十乃至五十の賊出沒し我憲兵と衝突せり又全羅北道益山郡地方は一時平穩なりしが本期間に至り約五十名の賊出現し近來人心不安の情態にあり其他地方に於ては平穩也

△忠州管區 一般平穩にして人民は各自生業を營みつゝあり然れども是迄屢々徘徊せし少數の賊及前期間に出沒したる陰城郡地方の約三十名の賊は未だ其影を絕たず

△連山管區 忠淸道に屬する地區は平穩なれ共全羅北道に屬する地區新山錦山茂朱龍潭郡地方には七八名乃至三十名の位の賊出沒せり

△全州管區 前期に引續き尙不穩なり全州より淳昌に亘る線以西は一般不穩にして約廿乃至四九名の賊は屢々我討伐隊と衝突せり又同線以東は前期間は稍々平穩なりしも本期間求禮郡地方にて約九十名の賊出沒せり

△大邱分隊管內 慶尙北道は一般に不穩なる著しき事項なし隨て人民安んじて其業務に從事しつゝあり然れども慶尙南道咸陽河東方面なる智異山附近の部落には時々有力なる賊徒來襲し金品の掠奪放火及良民を殺傷する等不穩の狀態にあり又各所に一時賊屬したる賊徒は殆んど活動するの勢力なく各所に於て解散したるものゝ如く配下の賊徒等は潜に歸鄕し續々歸順を願出づる者多きに至れり

△淸河管區 前期に比し賊徒の出沒減少せり目下寧海郡內に少數の賊出沒する情報あるを以て偵察せしも何等得る處なし賊魁申乙石は近來部下大に減少し僅かに二十名外の者を督勵して英陽平安郡地方に出沒するものゝ如し其他盈德郡地方に七八名乃至十二三名の賊徒出沒するの情報あるを以て偵察せしも本期間何等得る處なし

△大邱管區 概して平穩なる本期間醴泉部內に於て五名の賊と衝突せしのみ其他聞化榮川郡地方の出沒せし賊の殘徒目下小白山大白山中に潜伏し居るものゝ如し極力搜索中なるも同山中は險峻なるに加へ樹木繁茂し行動頗る困難にして未だ好果を奏せず

△釜山管區 前期間は至つて平穩なりしが本期間慶州、永川、蔚口地方に少數の賊徒出沒し永川郡內に於て約十五名の賊と 回衝突せり

●討[illegible]報 賊

△忠淸北道丹陽分遣隊上等兵以下五名は憲兵一補助員四より成る十月十三日丹陽西南約四哩半にて約三十の賊を襲ひ首魁一名を捕へ數名を傷け銃六を鹵獲す△京畿道汶山分遣隊の憲兵二補助員三は十月十六日汶山の東方約五里に於て約三十の賊を潰走せしめ八を斃し銃器十一軍刀一鎗四を鹵獲す△黃海道溫井院分遣所の憲兵五補助員七は十月十 日溫井院北方約二里に於て約二十の賊と衝突し之を潰走せしむ賊の負傷不明△京城憲兵五補助員七は黃海道全州部內搜索中十月十五日城頭の東一里半白雲峰の山中に於て約八十の賊と衝突し其五を斃し銃五實包八十八軍刀一を鹵獲す△開城管內搜索中なる憲兵少尉以下及補助員は十月十二日九化塢北方約三里にて約八十の賊を討ち其四を殪し銃三を鹵獲す△咸鏡南道新豐里分遣所の憲兵及補助員一は守備兵四名と共に十月十九日新豐里の西方約六里にて約三十の賊を討ち其一を殪し銃一を鹵獲す△平安南道藥水洞分遣所憲兵二補助員四は同地守備兵と共に十月十日藥水洞東方約八里にて約六十の賊を討ち其七を殪し銃一を鹵獲す

●海岸の電燈點火

仁川稅關前海岸に大アーク燈を設くべきことは既報せし所なるが愈稅關阜頭埋築地大棧橋及水產會社附近の二ヶ所に建築し一昨日より點火せり

●農大出身者の小宴

大藏省技師奧健造氏鹽業視察のため來韓し度支部技師岡田環一郎氏及び第十三師團獸醫部長藤崎芳一氏不日歸國するに付東京帝國大學農科大學出身者十餘名は一昨夜右の三氏を巴州亭に招き送迎の宴を開きたり

●櫻井丸の南浦航

仁川稅關の櫻井丸は來月初旬鎭南浦に向ひ出發する筈

●龍山水害救恤演藝會

過般の龍山に於ける水害は實に慘憺たる光景にて當時の狀況は既に各新聞に依りて報せられし如くなるが中村再造、和田常市、山口太兵衞氏等數十名の有志家發起にて之れが爲め崇りし本邦人の窮狀を救はんと明二十五、二十六の兩日本町京城座に於て慈善演藝會を催し其純益に依りて救恤費に宛てんとて左の趣旨書を發したり尙ほ入場券は本町三丁目林田金次郎、旭町一丁目池田長次郎、本町七丁目山田幸七の三商店にて發賣すると云ふ

世の進運につれて種々の事業も殆ゑ便利も亦加はり人間生活の有樣も次第に高まり行くは必覺人類の幸福を增すものにて寔に喜ばしき限りなれど只奈何せん定めなきは浮世の常にして時に天災地殃あり人に疾病其他の煩ひあり榮枯盛衰忽ち處を易へて人世の幸福を享け得がたきに至れるものあるは實に憐むべきの極みならずや

龍山に於ける今年の水害は洵に近年稀有の慘事にして或は全家を水に浸されて住むに家なきものあり或は數年粒々辛苦の中に蓄め來れる財產を流失して雜るに衣なく食ふに糧なきものあり爲めに營養の途絕ね疾病其身を冐すも顧みるに遑なく親子相擁して飢餓に泣き夫妻相對して殆んど名狀し難し呼嗟人世慘事固より多しと雖も斯の如きは其尤も甚しきものにして一閭尙酸鼻に堪ねざる所若し夫れ之をしも忍ぶ可くんば天下復た忍ぶ可らざるものあらんや

是の時に方り各其分に應じ之が救濟の任に當るべきは吾等が同胞に對するの人道義務なるを信ず而も唯奈何せん吾等の眇々たる途餘りありて力足らざるを是れ吾等の窃に自ら悲み亦深く慨とする所とす然れども吾等献芹の微意竟に之を含つるに忍びず乃ち相共に謀りて來る十月廿五日廿六日兩日本町一丁目京城座に於て慈善演藝會を催ふし其純益に由りて義捐の資を得以て彼等罹災者及水害者並に行旅病者に對し聊か救援の意を致し相憐の情を寄與せんと欲す冀くは稜々俠骨の仁人義士よ吾等の微衷を諒し奮つて翼贊せられんことを

●寄附褒賞

鹿兒島縣士族川越甚吉は馬山尋常高等小學校新築費寄附長崎縣平民柴田卯太郎は公州日本人會立尋常高等小學校へ魚類鳥類生理解剖圖標本を寄附したるに付副統監より褒賞されたり

●李學相の行程

平安南北道巡視中の李學部大臣は義州宣川定州晋州の視察を終へて本日平壤に入り鎭南浦黃州開城を經て來月初め歸京する筈なりと

●木內次官の出張

木內農商工部次官は朱安なる大日製鹽試驗場視察のため昨日水產課主任技師を隨へ出張し即昨歸京す

●安達參事官の出發

大使館參事官安達峯一郎氏は昨日平壤一泊新義州へ向け出發新義州へ一泊安東縣より滿州を視察せらる

●兒玉書記官歸任

上京中なりし兒玉統監府書記官は來る二十七日頃東京出發歸任の途に就く筈なり

●特許局審查官出張

特許局審查官松田金之助同審查官補北島友次郞の兩氏は明日出發商標審查上取調の爲め鎭[illegible]浦、定州、新義州、龍岩[illegible]局審查官白井良一同審[illegible]は本日出發明惠匠審[illegible]群山、釜山、馬山、元山[illegible]地へ何れも出張を命[illegible]

公人私人

▲河野查三郎氏(釜山[illegible])二十二日上京三日[illegible]
▲永島藤氏(平壤[illegible])二十二日出發歸任
▲松尾福五郎氏[illegible]人)來京中の所二十[illegible]
▲山下千太氏(大阪[illegible])上[illegible]

●近事片々

▲民團 議長の撰擧[illegible]り和田氏の議長は全[illegible]
▲會計 檢查員も亦[illegible]滑稽染みたる姓名あ[illegible]
▲併し 松永彈正中[illegible]石井常右衞門の如き[illegible]
▲若し 夫れ職場に[illegible]ば面白し聞くは京城[illegible]
▲民長 官選問題に[illegible]頭痛のよし今更に[illegible]
▲其非 を悟りたら[illegible]可らず威嚴云々の如[illegible]
▲是が 非でも我意[illegible]のみ之を公事に亂用[illegible]
▲一進 會員殺戮事[illegible]たる樣子左りとは餘[illegible]
▲誤殺 として弔慰[illegible]は事實乎此事は能く[illegible]
▲全く 不審の行動[illegible]慰金杯を與るを要せ[illegible]
▲韓人 等には全く[illegible]多し多少の不審と見[illegible]
▲帝國 に滯在せる[illegible]に向て秘密の交渉を[illegible]
▲撫順 炭礦を全然[illegible]共同事業とせよ隨分[illegible]
▲間島 全然淸領に[illegible]手を退くべしと是も[illegible]
▲淸國 の利權回復[illegible]して北京政府にあり[illegible]
▲北京 政府の後援[illegible]に之を煽動するに非[illegible]
▲撫順 も欲しい[illegible]ば次は南滿鐵道其[illegible]
▲強き に尻込み弱[illegible]用手段其手に乘て深[illegible]
▲唐紹 儀の來朝は[illegible]外交は矢張り支那[illegible]
▲間島 は全然淸領[illegible]ふ之に對する帝國の[illegible]
▲米國 大統領ルー[illegible]如く亞弗利加の猛[illegible]
▲亞弗 利加より[illegible]はアウトルック雜誌[illegible]
▲大統 領を退き[illegible]ふ杯は米人氣質[illegible]

●美人の末路（四）

青春の血潮燃ゆる許りなる皆川の若旦那は一たび政江と嬉しき夢を結びてからは心も空の有頂天日々の業務さへ碌々手に付かず内を外なる浮れやうに今は兩親も不思議に思ひダン／＼様子を探り見しに終ひにいよ／＼斯くと悟りたれば父は早速嚴しき意見を加へしに元來相當な教育を授かり居る若旦那のこととて忽ちにして迷ひの夢より醒め女のことは今日限り一切思ひ諦むる事となりしより兩親は漸く安心し若旦那も當座は兩親の手前滅多に外へは出ず謹慎なし居りしに話變はつて政江は近頃若旦那が勵の途切り間様一向下宿に寄り附かずソレに何の便りさへなきより一方ならず心配し君しも他に増す花の出來しにはあらざるかソレとも重き病の床に臥し居ることにもありはせずやと獨り胸をば痛めつゝもソレとなく搗へ象ねし思ひの丈を玉章に認めて送りける程に或日若旦那はブラリと訪ね來りしかば政江は飛び立つ許りに打ち喜び果ては氣もイソ／＼と其の後の様子を尋ねたりしに若旦那はいつにもなく悄け返へり、實は斯う／＼かく／＼の譯と包み隱しなく打ち明けタト互ひの胸の思ふ心の深きにせよ兎ても添はれぬ縁なれば今迄の事は夢現と思ひ諦め今日限り二人の中の關係をキッパリと斷つてこそ却つて互の身の爲めならめとの意外の言葉なるより政江は痛く打ち嘆き情ない貴郎の心縁あればこそ互ひに交はした枕と枕如何なる事情のあればとて斯く迄戀ひ憧れ居る妾しの心今更何うして分れらりやうぞソレに妾しとても一たび女の操を許せし身の今日限り貴郎に捨てられしさあらば最早生涯の日蔭者ヱヽ今の貴郎の言葉が怨めしいと政江は男の膝に取り縋りてョヽと許りに泣き崩れしかば男も今更思案に暮れしばし相擁し相抱きて悲嘆の涙に掻きくれしが軈て男はやう／＼顏を擧げ何時迄斯く嘆けばとて果しなければ何うか今の自分の言葉通り思ひ諦め呉るゝやうソレに附けてもそなたとても當坐の暮し向きにも差し支へければ此の金は少なけれながら收めて置かれたくホンの印迄にと懷中より五十圓の大金を取り出し政江に與へたりしに政江は何の返辭もなくしばし右の五十圓の金を打ち眺め居りしが稍々ありて容を正うし今迄の優しき樣子とは打つて變りマア添けないヨーといふをキッカケにれ巫山戯でないよとソロ／＼本性を現はし啖呵を切り始めたり

●慈善演藝會番組 龍山水害救恤の爲め本町七丁目京城座に於て明日より二日間慈善演藝會を開催することは別項の如くなるが其の番組左の如し

第一日

一、夕顔の合奏 琴（多比澤靜江）三味線（清澤末之）同（田中らい）一、ばいれりん 竹村義次澤合奏 一、捨て子（逢磨）一、八雲（澤田ゆき）一、舞（竹中坊）一、吾妻の名殘（田中ちよ）一、三十三所靈驗寺之段（山若）一、管原四段目寺小屋（清原勢）一、博多二輪加（逢磨）一、奇術（ジャッグラー）一、筑摩川長歌三味線（二色イロハ）

第二日

一、新高砂の曲合奏（多比澤靜江、清澤末之、竹村義次）一、六段合奏（多比澤靜江、清澤末之、竹村義次）一、舞（竹中坊）一、小供出雲八景（澤田ゆき、田中ちよ）一、ばいれりん春勇合奏（竹村義次、田中らい）一、岸姬松三段目（朝枝）一、中將姬雪責（清原せい）一、捨て子（逢磨）一、奇術（ジャッグラー）一、博多二輪加（逢磨連）一、小鍛治長歌（二色イロハ）

●申尙宮拷問に逢ふ 宮内の女官にて申尙宮と云ふは宮内女官中にても多少の勢力ある婆さんなるが警視廳にては申尙宮に對し何等かの嫌疑ありしと見へ過日之を拘引して取調べしも其實を得ざりしより遂に拷問して實を吐かしむることゝし拷問することゝなりたり然るに拷問の日となるや前宮内大臣李允用の夫人は阿と思ひしか申尙宮拷問の場に至り親しく之を實見したり此時警吏は申尙宮を縛したる儘打伏せとなし臀部を捲くりて鞭を揚げて之を亂打して拷問を初めたり此体を見たる季夫人は左も氣味好げに申尙宮に向ひてあらゆる惡口を吐きしかば申尙宮も又た劣らず拷問せられながら惡口の吐き返へしをなしたりとのことなるが取調の結果申尙宮は無罪にて出獄するを得たりとのことなるが斯く女の臀を捲りて拷問をなし又た之を夫人たるものが見て惡口するなどは韓國にあらざれば他に見られぬ圖なり

●死兒の遺棄 昨夜午前七時半頃仁川福島組仲仕麥谷類藏といふが用ありて觀測所下山根町一丁目を通行せる際路傍に生後約二週間を經たる乳兒（男子）の屍体を遺棄しあるたるを發見し直ちに其筋に通知したれば仁川署員出張の上取調べたるに乳兒は左手の母指は二本都合六本の指ある不具者にて死体は（アンペラ）に包みありたるが衣服其他により鑑定するに多分支那人の所爲なるべしといふ

●高靈郡任員の不埒 慶尙北道高靈郡稅務主事李鍾國なる者が本年其取扱ひに係る官金を拐帶して逃亡したることありしが聞く所に依れば同稅務主事が着任以來各面の稅金納付額は其納付金高に依り悉く之か納入書を各面長に渡し現納金控簿に記入せしも同主事逃亡後は面任員等は密かに此納入書の傍に幾百圓を記入して調査の際には其記入文書を以て證據として稅金を誤魔化し納入金額と稅務主事の取扱ひたる現納金額との差異は逃亡したる稅務主事に罪を着せつゝあることは郡中一人として知らぬものなしとの搜査網[illegible]込みたり

●開院式と寄贈 大韓醫院は既報の如く愈よ本日午後一時開院式を擧行せらるゝに付き左の物品の寄贈ありたり

一、淸酒櫻正宗 貳樽 高田商會
關東煮 貳千人前 同商會
一、繪端書 二枚宛組三千組 日韓印刷會社
一、洋酒摸擬店 大西組
一、天プラ同上 山岸天爵堂
一、果物同上 內山嘉吉
一、喫茶店 日下部喜太郎 門屋直次郎
一、烟火 三十六本 小澤愼太郎 小林藤右衛門
一、綠門 藤原熊太郎

商店覗き

▲慶田組▼ 本店は仁川なり當地に支店を設けしは今より數年前と覺ゆ組主は慶田利吉氏質實にして機略に富み而も業務に勉勵なり一般の組員又極めて熱心にして敏捷從つて世評嘖々丁寧と迅速と勉強とは多年來顧客の膾炙する所なり現今にては韓國の運送業者中有數のものとして克く通運會社と拮抗し對峙併立の觀あるもの亦偶然にあらざるなり當地支店の主任は新原氏副主任は鮫島氏共に慶田氏を扶けて怠るなく敏疎の手腕同業者中風に有爲の事務家として稱せらる組員十數人場所は南大門外にあり

▲青木堂▼ 本町三丁目の角にありて商品は西洋食料殊に洋酒は何んでも御座れでセリー、ウヰスキー、ブランデー、ビッパーメントルベルメッといふ工合來客をして〻エれ愛憎さまと斷はりしことなしとは專ら小僧どんの廣言する所なり店はチョコマンなれども販路は弘大客足却々に頻繁なるも通理主人夫妻の勉勵尋常一樣の此にあらざればなり店としては新參の方なれど第一値段の廉いのにれ客を大切にする事が馬鹿に世間の好評を博し現今にては店運日々に盛んにれ蔭で繁昌しますと主人はホク／＼喜び居れり言ふ迄もなく商賣の秘訣は信用と勉強にあり至誠神をも動かすとは千古の聲へ蓋し此の心を以て事に從ひなば巨萬の富期せずして至るべきは言ふ迄もなし主人たるもの幸に自玉加餐せよ焉

●龍山本願寺の說敎 龍山本願寺に於ては本日午後七時三十分より巖開敎使の說敎あり

●腸窒扶斯 京城黃金町番外中谷松藏（二十三）は廿一日腸窒扶斯に罹り靑坡病院に送らる

●防火塗料エンペルの實驗 岡山縣人にして札幌農學校の出身なる仁科遠平氏は我邦の家屋が土藏又は煉瓦以上防火に耐ゆる物なくして火災の爲めに貴重の財產を烏有に歸する慘狀を防遏する道なきを遺憾とし防火塗料につき多年の研究を積み終にエンペルと名げたる防火塗料を發明したるが其の効力を實際に試驗せんが爲め去る一日東京丸の內に於てエンペル塗の土藏及塀等を建築し之れが火災實驗を爲したり當日の光景は實に壯んなるものにして見物に來りたる數萬の東京人士に其効力の强大なるを認識せしめ發明者の豫期に違はざる成蹟を得たりと云ふがそは火災の火力は如何なる大火にても熱度華氏二千度を超ゆることなく一定所の燃燒時間は四十分間を程度とするものなるにエンペルの試驗火事熱度は二千百七十四度經過時間一時間なるに試驗後に於て土藏內に容藏し置きたる提燈國旗其他種々の物品毫も異狀なく安全に取出したることの如何にも觀客を敬服せしむるの價値あり此の實驗以來建築學者技術家の間題に上り何れも現今の防火塗料としてはエンペルに及ぶものなしと斷定を爲したりと云ふ尚はエンペルの販賣所は東京芝區愛宕町一丁目仁科商會なり

●丸一の誓文拂 本町三丁目丸一反物店にては昨日より誓文拂を始めたるが得用品を以て名高き同店のこととて何れも品切せざる內に買はんと店頭人山を築くの盛況なりと

●巷のいろ／＼●

●ヨボの賭場崩れ 昨朝午前二時南部弘門洞八統一戶張輔衡（四二）は自宅溫突に於て同居人楊大植（四八）許屛六統十戶高鎭浩（四七）石井洞七十九統十戶林炳學（三九）慶尙北道寧[illegible]金龍珠（四二）龍山分署車幕二十統二戶姜致俊（四五）同所朴濟範（三九）の七人車座になり金を賭して夢我無中に博ち居る處を巡廻巡査之を嗅ぎ付け一同引致したり

●自轉車の高飛び 南大門內陽生坊陽洞四十五統一戶貸自轉車店李貞來方へ一昨日午后二時頃某日本人來り二時間三十錢にて自轉車を借り何れへか行つたきり

●西部管內の種痘執行 西部警察署にては廿一廿二の兩日二千七百人餘の種痘執行をしたり

●氏名詐稱で五十錢 大和町二丁目伊藤組車夫竹中鎰太郎は過日南大門通りにて巡廻巡査より其氏名を尋ねられし際鹿兒島縣島原郡人吉村時好才藏なりと申立たるより詐稱の廉にて科料五十錢のお灸を一つすゑらる

●蝸前屋の繁昌 近頃駱洞の料理亭春日の裏通りなる蝸前屋の前を通りかゝりたる遊其れは／＼の大混雑中には八字髭や書生体のものもあり右から左からウヤ／＼して立ち換り入り換り三十錢の大奮發を實行しつゝありたり

同可娛欄（十六）

●狂歌 （本紙登載廣告） 魚友痴史

▲下宿辻家● 室も良し客扱ひも親切の 噂は高き辻家市街々々

▲同澤田館● 旅の客宿をば雁の訪るゝ 人も澤田に繁き声の葉

▲同統明館● 人の眼に月八圓の廣告は 統明舘の勉きよう下宿

●（平）（民）（文）（庫）●

▲不如歸の主人公大山浪子の夫武男は實名三島彌太郞と稱し現今牛込の寓居に閑雲野鶴を友としつゝあり軍人にはあらざるなり（悃懇者）▲南山町の大園とか小園とかいふ先生八丁目のハイカラ事件の談判は埒が附きましたか（心配生）▲欲張生に告ぐ御尋ねの支那人雜貨店にて發售する彩票は我々日本人が買ふことは出來ません若し買つた事が判つたら新刑法第百八十七條に依り三百圓以下の罰金又は科料に處せられます次にこれに關して義生盛號や同順泰あたりの信用如何をれ聞きですがソウいふ次第ですから今後に回答の必要はありません（一記者）▲郵便局附近のアナ物屋の娘さんウント謀活動なさいよ（ポスト）▲岩見一坐昨今の狀況如何幸に自玉加餐焉（齋猶散史）▲本月はせいもん拂ひ也八百八萬の神さまが出雲に集り一年中の打ち合せを爲す時なり就中緣組の相談が重大問題にて之には餘程愼重の態度を取る由（金比羅太明神）▲太平町の大曲質店では入質物件を他へ損料貸しして居るさうだ事實とすれば不都合だせ（實見子）

●天氣豫報（自廿三日午後六時 至廿四日午後六時）
北又は東の風曇
廿二日午前六時各地氣象概況
低氣壓は支那東部にあり北又東の風吹き南部は晴天なれども其他は槪ね曇天にして龍岩浦は降雨せり

廣告

落語

一ツ穴（八） 柳屋圓蔵口演

女「アヽ然う〳〵恐ろしい色の黒い奎で鍋の尻のやうな人ねへ……

權「此女ア乃公のことを鍋の尻だつて吐して居やアがる……アレ何か小さい聲で話して居やがるモツト大へ聲を爲て遣れ…コレ白痴ツ…止せ白痴だつてへのに…アヽ此りやア詫りやア魂消た…障子を閉ちまつた此りやア驚いた此れぢやア御内儀さんがグツ〳〵云ふのは無理ねへこつた乃公ア罪鍋の尻だと吐きやアがつたな覺ねて居ろアヽ痛い釘で額を鍵割き爲た……覺ねて居ろと權助烈火の如く怒つて家へ歸て來ました

妻「權介……

權「……

妻「御苦勞だつたね此方へ御這入り…何う爲たんだい和前の鼻の頭と額は眞ツ黒だよ然うして血が出て居るヨ

權「今板塀覗いたからだ

妻「覗いて何う爲たんだい

權「覗ん處を塀に出て居る釘で鍵割を爲たんだ

妻「顏をかぎざきする奴があるもんかね

權「れ内儀さん今日斗りは乃公ア魂消ちまつた

妻「何う爲たい

權「斯う云ふ理由だ話しイするがノー膽を潰しちやア不可ねへ

妻「大丈夫だョ

權「家を出ると兎角にハア檀那どんが乃公ア邪魔に爲るだ本所の屋敷まで送り屆けたら直ぐ歸れ〳〵と云ふだ容子が變だから俺ア居ちやア無益だと斯う思つたからパンの附燒イ賣る屋臺の下へ隱れて居た檀那どんは乃公ア隱れて居るのを知んねへで乃公の方で歸うと思つて居たが野郎の方でまかれやアがつた白痴だなんて云ひ乍ら聰て歩出したから俺も跡から尾て行くと何ん……とか云びやした……何んとか云ふ巨大へ茶屋が有つたね……

妻「ナニ龜清かい

權「然んな名ぢやア無へ……ホラ兩國の角に巨大へ茶屋が……

妻「大橋かい

權「大橋だ……大橋の横町曲つて又曲つて又曲る處があるノー……

妻「ハア

權「又曲ると一イ二ウ三ツ裏を通つて廣大へ拔裏の角の家で格子窄つてるんだ

妻「ハア……

權「其處の家イ檀那どん驅込んだ見ると云ふと魂消たね檀那どんの駒下駄ア出し放しであるだ

妻「ハア夫れから……

權「夫れから見やうと思つても見られねへ裏の方へ廻ると黑板塀に節穴があるだ節穴から覗くせ魂消た

妻「何う爲たへ

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲半年前金貳圓▲一年前金參圓
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲六號活字十九字詰一行金二十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社 京城西署西小門外 電話六三番